

【議事録】

実施日時 令和8年9月28日（月）午後1時30分から午後2時40分まで

会議名	令和8年度第2回 八潮市地域福祉計画推進委員会会議	実施場所	八潮市役所3階 3－4会議室
目的	■進捗会議 □説明会 □研究会 □レビュー □Q & A □打ち合わせ □その他		
件名 議題	1 開会 2 議事 ・第4期八潮市地域福祉計画（素案）について 3 その他 4 閉会	資料 有■ 無□	
提供 資料	・次第 ・資料1「第4期八潮市地域福祉計画（素案）について」 ・追加資料 第4期八潮市地域福祉計画素案 主な変更箇所について	傍聴者数 0人	

内容
議事概要 <u>(1)第4期八潮市地域福祉計画(素案)について</u> 質疑応答 （ 委員 ） 第3期計画と比較すると、図やイメージが取り入れられ、全体として見やすくなったと感じている。一方、第3期計画では「社会参加・参画の促進」が位置づけられていたが、第4期計画（素案）の体系には、その文言が見当たらない。ほかの施策に包含する形で整理したのか、その考え方を伺いたい。 （ 事務局 ） 「社会参加・参画の促進」については、今回の計画体系では、基本目標3「安全に安心して生きがいを持って住み続けられる地域づくり」の中に含めて整理している。この基本目標に位置づける各施策を通じて、社会参加等に関する取組についても推進していきたいと考えている。 （ 委員 ） 社会全体でDXやITの活用が進んでおり、行政や介護分野等でもデジタル化が進展している。一方、今回の計画（素案）では、DX、IT、インターネット等に関する記載があまり見られない。高齢者だけでなく、若い世代や子育て世代、障がいのある人もインターネット等を活用して情報を得る機会が増えていることから、今後の地域福祉を考える上で、DX等の視点についてどのように考えているのか伺いたい。 （ 事務局 ） DX等の活用は必要であり、個々の事業では情報発信や業務の効率化などに活用していく場面があると考えている。一方、地域福祉計画は地域福祉に関する基本的な考え方や理念を示す性格が強く、DXそのものを計画の中心テーマとして位置づけることは現時点では想定していない。 また、デジタル機器等になじみにくい人もいることから、今後の活用状況等を見極めながら検討していきたい。

（ 委員長 ）

DX、IT、AI 等は、地域福祉を推進する上で活用する「手段」の一つと考えられる。個々の事業では活用が進むものと思われるが、地域福祉計画は考え方や理念を示すものであり、現段階で DX 等を大きな柱として位置づけることは難しいのではないかと。

一方で、デジタル化によって利便性が高まる反面、高齢者など利用が難しい人への配慮も必要であり、人と人とのつながりやふれあいを大切にする地域福祉の視点も重要である。今後の検討課題として考えていく必要がある。

（ 委員 ）

DX 等の視点は今後重要になってくると考えるが、現時点では計画への位置づけを急ぐのではなく、今後の社会状況等を見ながら検討していくことも必要ではないかと。

（ 委員 ）

高齢者の中には、メールやデジタル機器等の利用が難しい人も多い。民生委員・児童委員の活動では、紙の資料を持って直接訪問し、顔を合わせて話を聞いたり、声をかけたりすることを大切に行っている。デジタル化が進む中でも、こうした対面による支援の重要性を考慮してほしい。

（ 副委員長 ）

第 4 章では、各事業について実績値と目標値が示されているが、50 ページの「放課後子ども教室参加者数」の令和 7 年度実績値が「0 人」となっている。他の指標と並べて見ると、事業を実施した結果 0 人だったようにも受け取られるため、表記を工夫した方がよいのではないかと。

（ 事務局 ）

放課後子ども教室は令和 8 年度から開始した事業であり、令和 7 年度は事業開始前であるため実績がない。「0 人」とすると誤解を招く可能性があることから、「－」等の表記に変更したい。

（ 委員 ）

実績値を「－」とする場合は、事業開始前であることが分かるよう、注釈を付けてはどうか。他にも同様の表記がある場合、理由が分からない可能性があるため、説明を加えてほしい。

（ 事務局 ）

表記方法や注釈について検討する。

（ 委員 ）

目標指標を見ると、令和 7 年度の実績値から令和 14 年度の目標値に向けて増加する設定が多い一方、実績値と目標値が同じ数値となっている項目も見られる。目標値であれば現状より高い数値を設定することが一般的と思われるが、同じ数値としている理由を伺いたい。

（ 事務局 ）

例えば研修会の実施回数など、これ以上回数を増やすことが難しく、現在の水準を維持すること自体を目標としている事業もある。目標値は各事業の担当課が設定しており、それぞれの事業の性質によって考え方が異なっている。

一方、参加者数など増加することが望ましいと考えられる指標については、設定した目標値が適切か担当課に確認している。今回いただいた意見を踏まえ、改めて目標値について精査し、必要に応じて担当課へ確認したい。

（ 委員長 ）

相談件数等についても、件数が増えることを目標とするのか、減ることを目標とするのかが分かりにくいものがある。目標値の設定根拠を分かりやすくする必要があるのではないかな。

（ 事務局 ）

相談件数については、相談しやすい環境づくりを進めることが重要である一方、件数が増え続けることが必ずしも望ましいとは限らず、目標値の設定が難しい面がある。

また、目標値については、総合計画等で既に進捗管理に使用している数値を活用しているものや、担当課が過去の実績等を踏まえて算出しているものがある。このため、目標値の算出方法は事業によって異なっている。

（ 委員長 ）

例えば、実績値より目標値が減少している相談件数について、相談自体を減らすことを目標としているように受け取られる可能性がある。相談件数と実際の支援ニーズは異なるため、数値の意味を整理する必要があるのではないかな。

（ 事務局 ）

一部の指標については、国が人口規模等に応じて示している目標値を使用しているものもある。そのような場合も含め、目標値の設定根拠が分かるよう、注釈等による説明を検討したい。

（ 委員長 ）

各担当課がそれぞれの考え方で設定した数値を掲載するだけでは、計画全体として分かりにくくなる可能性がある。必要なものについては、目標値の設定根拠などを注釈で示し、市民に分かりやすい記載としていただきたい。

（ 事務局 ）

指標の表記や設定根拠について確認し、必要な説明を計画に反映できるよう検討する。

（ 委員長 ）

本日の意見を踏まえ、必要な修正を行っていただきたい。DX等の活用については、今後の検討課題として考慮するとともに、目標指標については、事業開始前の数値の表記や目標値の設定根拠などが分かりやすくなるよう整理していただきたい。

また、その他の意見については、配布された意見書に記入し、事務局へ提出することとする。